

様式（第3条関係）

東京都北区とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都北区赤羽 3-23-7
園名	岩淵保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然：さつまいもの栽培活動

<テーマの設定理由>

さつまいもを実際に育てることで、成長過程や沢山の人が携わっていることを学んでほしいと感じた為。また、食べ物への興味や感謝の気持ちを抱く機会になればと考え、計画をした。

2. 活動スケジュール

- ・ 5月→昨年使用した土の雑草を取り、肥料を混ぜて土作りから行い、さつまいもの苗を土嚢で育てることにする。
- ・ 5月～11月→週に1回ほど、子どもたちと水やりや雑草取りを行った。
- ・ 11月→4. 5歳児で芋ほりをし、掘れたさつまいもは2週間ほど天日干しをする。
- ・ 11月→5歳児クラスにて栄養士にホットプレートでさつまいもを調理してもらい皆で食べる。
- ・ 12月→芋のつるを使ってクリスマスリースを作る。

3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

- ・ 土嚢 ・ スコップ ・ シャベル ・ 軍手
- ・ 培養土、赤玉
- ・ さつまいも苗
- ・ クリスマスリース製作用素材

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

屋上に大きなブルーシートを広げて土づくりから始める。昨年に使用した古い土と新しい土と赤玉とを混ぜる活動からはじめ、数日後に土嚢に土を入れて一人一株ずつさつま芋の苗を植える。水やり当番を決めて、様子を見ながら水やりを行う。つるが伸びていく様子や葉の色、大きさなどを友達同士でくらべながら生長を楽しみにする。芋ほりでは軍手をつけて「どうやって掘るのか」を試行錯誤していた。掘ったさつま芋はしばらく天日干しし、頃合いをみて栄養士がクッキングの提案をする。残念ながら感染症が流行ってしまい、直接のクッキング活動はできなかったが、栄養士が目の前でバター焼きにしてくれたのを喜んで食べていた。収穫時に取っておいた芋づるのリースは、クリスマスの製作活動に活用した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

土作りの際には、土の感触や匂いを感じたり、虫を見つけて観察する様子が見られたりした。水やりに行く際には、日々根を伸ばす様子に『大きくなった!』と喜び、葉っぱに穴が空いていることに気付くと『なんでだろう』『虫がたべたのかな?』と子ども同士話す姿が見られた。保育者が答えを全て伝えるのではなく、子どもたちが何故だろうと疑問を持ち、考える機会を大切にしていた。芋掘りでは、土からでてきた芋が紫ではなく土の色をしていることやそれぞれのお芋に色の違いがあることに気付いていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た職員の気づき>

今までは、年長児が芋掘り遠足に行き、掘った芋を見せてもらったり給食で食べたりしただけであったが、自分たちでさつまいもを育て、保育園で芋掘りができることをとても楽しみにしていた。実際に土作りから行うことで、さつまいもができるには、皆で協力して行うことや、太陽や水、土、虫等の自然物が必要なことに気づくことができた。また、食べるまでにも、天日干しをすると甘くなることを学んだり、芋をきれいに洗う等調理にも携わることで、食への興味や食べ物への感謝の気持ちにも繋がった。